

杉戸町立杉戸第三小学校 令和6年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況 (成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	○児童が見通しを持ち主体的に学習に取り組むことができるよう授業改革を図り、学ぶ楽しさを味わわせる。	・校内研修での意見交流 ・自主的な授業公開 ・単元計画の作成 ・振り返りの充実 (個々に学びを自覚)	・学校生活アンケート(授業項目)②児,保95% ③児,保85%④⑤児,保88% ⑥児,保80% 上記項目において教師との意識の差をR5より狭める。	b	△今年度の取組(単元計画の作成、児童と共有)を見直しさらに改善を図る。 【学校生活アンケート結果】 ②授業が楽しい(児89%保89%) ③粘り強く学習(児82%保74%) ④振り返り(児85%保66%) ⑤授業理解(児85%保86%) ⑥伝え合い(児93%保86%) ○学力調査では国語の基礎問題で全学年平均以上。応用問題でも4つの学年で全国平均を上回ることができた。 ○課題である算数で成果が出ている。3つの学年で基礎・応用問題とも全国平均以上となった。 △算数では目標達成に至らなかった学年もある。低学年での躓きが意欲や知識・技能に影響するので、丁寧な指導が必要である。 【総合学力調査結果】正答率(全国比) 1年 国語72.3%(-2.2)算数89.0%(+2.7) 2年 国語83.7%(-1.6)算数70.6(-7.8) 3年 国語66.6(+1.8)算数75.1%(+2.8) 4年 国語71.1%(+6.0)算数80.1%(+8.4) 5年 国語67.7%(+1.5)算数56.6%(-8.0) 6年 国語69.3%(+4.8)算数79.3%(+9.0)	・教師が振り返りの視点を明確にするとともに、児童の学習の振り返りを活かした授業展開となるよう教師と児童がともに単元全体を見通した授業へと改善を図っていく。 ・マイブラン学習や自由進度学習の良さは活かしつつ実態に応じた児童への支援等教師が十分な準備を講じる。また、児童の取組状況等を把握するためICT機器を効果的に活用する。 ・学力調査の結果分析から学校全体、学級・学年の課題を把握し、年度内に学び直しを行う。必要に応じて複数教員で指導を行う等学習形態を工夫し定着を図る。	b	・児童・保護者ともに90%以下が目立ち、学校が目標にする主体的な学びに向けての取組が保護者に理解できていなかったり、児童の姿に表れていなかったりする可能性がある。児童の変容の姿により、取組への理解が深まるようにすることが課題である(特に、読解力と発表力(話す力)を向上させていただきたい)。 ・確かな学力が身についたと感じる。児童・保護者の割合は指標を下回ったが、学力調査は手ごたえのある結果であった。意識の差は今後埋めていけると思う。教職員の努力は大変評価している。 ・改善策にある内容をぜひ実行してほしい。家庭学習も必要に応じて取り組む内容を指示することで苦手克服につながると思われ、家庭との連携がさらに図れることを期待する。 ・先生方の学習内容を聞く限り、教師同士の情報交換等、日々改善されていると感じる。自由進度学習、ICTを活用した学習については引続き興味・関心を寄せていきたい。 ・ICT機器も活用されており、自主学習等子供たちが自分で考え、学ぶ様子が見られている。 ・児童が進んで授業に参加していたのが素晴らしい。また、タブレットをうまく活用できていると感じた。 ・先生方の授業の工夫から、児童が積極的に授業に取り組む姿が見られました。受け身から参加型に変化してきていると感じた。また、児童の表情が明るく、学校生活が充実していることが見て取れた。
	○児童が主体的に学ぶための学習スキルを定着させ、個々の力を高める。	・授業の中で、書く聴く話すスキルの向上 ・よむYOMUワークシートの活用 ・マイチャレンジ学習の活用(苦手を克服、得意を伸ばす)	・総合学力調査 国語:全国比+3P以上 算数:全国比-2P以内 基礎問題:国語算数 全国比以上	B				
豊かな心	○児童の思いや考えを活かした教育活動を推進し、学校生活の中で達成感や充実感を味わわせ不登校児童ゼロを継続する。	・計画委員会主催の児童集会や委員会活動の充実 ・たてわり活動、クラブ活動、生活科で異学年交流 ・特別活動(話し合い)の充実	・学校生活アンケート 児,保,教とも ①学校が楽しい:98%以上 ⑨努力を認める:98%以上 ⑨意見を聞く:98%以上 ・不登校、新規不登校ゼロ	b	○たてわり活動や児童集会等異学年交流による学級外での関わりで優しい心が育まれている。 ○委員会や学級での話し合いが行事等諸活動に反映されることで達成感を味わい児童の楽しい学校生活につながっている。 ○言葉遣いや挨拶は、三者の数値が同等であり児童の実態と言える。課題である挨拶は、保護者の意識が高まっていることから学校外でも少しずつ挨拶ができるようになっていいると考える。 ○新規不登校はいないが、同じ児童が登校しづりをする様子はある。家庭との連携を継続する。 【学校生活アンケート結果】 ①学校が楽しい(児93%保95%教100%) ⑨努力を認める(児97%保96%教100%) ⑨意見を聞く(児96%保96%教100%) ⑨言葉遣い(児87%保83%教88%) ⑩あいさつ(児85%保81%教88%) ・新規不登校ゼロ	・様々な教育活動において、児童の考えを反映させることができるような取組を推進していく。 ・低学年から学級活動での話し合い活動を十分にを行い、高学年で自治的活動ができる児童を育成する。 ・言葉遣いや挨拶は、教師が率先して行うことで手本とする。児童自身が挨拶の良さや必要性を実感できるようにする。また、学校は公共の場であることを指導し、場に応じた言葉遣いができるよう声かけ等を継続する。 ・今後も児童アンケート等の積極的な活用により、いじめ・不登校を生まないよう早期発見・早期対応に努めていく。	b	・児童の思いや考えを活かした取組がとても良いと感じました。キラリかがやき発表会、スポーツフェスタの競技など、自分たちで話し合い、互いの意見を尊重しながら話し合いが十分に生かされていると感じました。自ら考え行動するといった主体性・自主性の育成につながると思います。 ・学校が楽しいと答えた保護者のアンケート結果は一定の成果である。児童も挨拶できると自覚してきており、活動は浸透していると感じる。引続き指導を続けてほしい。 ・評価項目に「豊かな心」とあるため、情操教育や道徳、文化活動等の取組が入ってきてよいと思われた。 ・あいさつは自己表現の第1歩であると思う。恥ずかしがらずに自然に挨拶できるようになってほしい。 ・行事等に対して、子供たちはとても楽しみながら協力している様子が見られている。 ・教室の掲示物等が工夫されていて児童の様子がよくわかった。 ・引続き元気な挨拶ができるようになってほしい。 ・グループでの活動をととして、仲間と味わえる達成感を実感することで、互いに認め合う気持ちが生まれてくるのではないと思う。
	○相手や場に応じた言葉遣い、あいさつができるようにする。	・生活目標から児童に意識付け ・教職員による率先垂範 ・できている児童への称賛 ・懇談会等で家庭に周知、啓発	・学校生活アンケート ⑨言葉:児,保88%以上 ⑩挨拶:児,保R5+5P、 教88%以上	b				
健やかな体	○体育授業と外遊びを通して、体を動かすことの楽しさを味わわせる。	・運動量と学び合いのある体育授業の実践 ・各学級やたてわり活動で外遊びの奨励 ・運動委員会による企画	・学校生活アンケート ⑭思いきり運動: 児,保R5+2P以上 ⑮外遊び: 児,保85%以上	b	△体育授業の質の向上と運動量確保を目標に推進したが十分とは言えない。登校後にマラソンや縄跳び等進んで活動する姿も見られ、運動好きな児童は比較的多い。しかし、外遊びの児童意識は低下傾向である。現在、休み時間の過ごし方は様々である。 △基本的生活習慣の定着を目指した取組と歯科指導を中心とした健康教育を推進した。児童の欠食率は5%以内である。 【学校生活アンケート結果】 ⑫生活習慣(児-7P,保+2P) ⑬手洗い(児93%,保83%) ⑭思い切り運動(児-1P,保+1P) ⑮外遊び(児75%,保81%)	・体育授業以外にも、運動委員会の企画やたてわり活動での外遊びや運動の生活化を促進し、外で体を動かす時間を確保する。 ・体育授業での質の向上と運動量の確保については、校内研修や学年会を通して指導の工夫・改善を図る。 ・うがい手洗いの励行は年間を通して継続し、児童自ら健康を維持できるような力を高めていく。 ・基本的生活習慣をはじめとする健康な生活については、保健委員会の放送での呼びかけや各教室での啓発活動を継続する。また、保健だより等で家庭への啓発を図る。	b	・保健だより等の発信、生活チェックシートによる基本的生活習慣の定着への取組を着実に実施していた。今後も指標となる発信を続け、改善につなげてほしい。 ・コロナ後の生活習慣、体を動かすことへの戸惑いがまだ少し残っているのかと気になりましたが、今後徐々に解消されていくことを望む。 ・児童の成長に基本的生活習慣の定着は大切なことである。今後も継続して発信していただきたい。 ・外に出るきっかけとして、定期的に外で楽しめるイベントやゲームを仕掛けるのもよいのではないだろうか。 ・外遊びでは課題が見られる一方で、元気に遊んでいる子供たちもいる。 ・休み時間等には、校庭や体育館を利用して元気に体を動かせる工夫が必要と感じる。 ・仲間との活動をととして今後もチャレンジ精神が芽生えてくるとよい。
	○家庭と連携し基本的生活習慣の定着を図ることで、自分の健康を意識できる児童を育てる。	・うがい・手洗いの励行 ・生活チェックシートで「早寝早起き朝ごはん」の定着と奨励 ・歯みがき指導でむし歯予防と歯の健康を啓発	・学校生活アンケート ⑫生活習慣: 児,保R5+2P以上 ⑬手洗い: 児,保95%以上	B				
学校独自	○地域の教育力を活用した体験活動を充実させ、児童にとって誇れる学校を目指す。	・地域ボランティアの協力による体験活動の実施(地域見学、植栽活動) ・杉戸ふるさと学習に基づいた取組	・学校生活アンケート ⑲連携:保R5+2P以上 ⑳よい学校: 児,保R5+3P以上	b	○植栽活動や地域見学の実施により、充実した教育活動を推進することができた。体験を通した学びは児童の豊かな心を育んでいる。 ○PTA協力によるバザーや餅つきは子供たちの良い体験となった。また、PTA主催のクリーン活動により子供たちのより良い教育環境が支えられている。今後も連携を継続していきたい。 △HPの活用が十分でなく、教育活動の様子を地域に発信することができた。 【学校生活アンケート結果】 ㉒地域連携(保-2P) ㉒よい学校(児±0 保-6P)	・地域ボランティアとの連携を密にするとともに、教育課程をふまえた見通しのある取組としていく。 ・保護者連絡は通信アプリ「すぐーる」を活用し、地域への情報発信としHPを活用する。地域に支えられている学校として今後も教育活動の様子を発信していくことを大切にしたい。	a	・PTA行事への前向きな協力がありがたいと感じました。今後も地域ボランティア活動等をととして、学校への協力体制を継続し、児童にとって自慢できる学校にしていければと思います。 ・教職員の不断の努力が実を結びつつあると感じた。児童も保護者も学校を誇らしく思っていることは喜ばしいことである。今後の更なる飛躍に期待している。 ・様々な体験活動を実施しており、児童にとって良い経験になっている。 ・引続き協力できることを探し、全力で支援していきたい。 ・もちつき、田植え等三小独自の行事については、今後も継続してほしい。 ・PTA、地域ボランティア等との連携がうまく図れている。三小ならではの行事が末永く続くよう調整していったほしい。
	○OPTAとの連携を通して、自慢できる学校づくりを推進する。	・うすフェス(PTAバザー) ・もちつき ・クリーン活動等環境整備 ・家庭・地域による見守り活動	・学校生活アンケート ㉒よい学校: 児,保R5+3P以上	B				